

■ 墨田区現況分析結果まとめ

< 現況データ確認の視点 >

- これまでの委員会で指摘された主な事項に応じたデータ整理を行う。
- 共通する視点として、「地域性」(南北)の違いや商住工「混在」などの区や地区の特性が確認できるよう意識した取りまとめを行う
 - a. 人口特性の変化・分析
 - b. 土地利用の変化 (これまでの施策の効果検証)
 - c. まちの拠点性・すみだらしさや都市像、方針への考察

表 検討委員会におけるデータ整理等に関する意見一覧

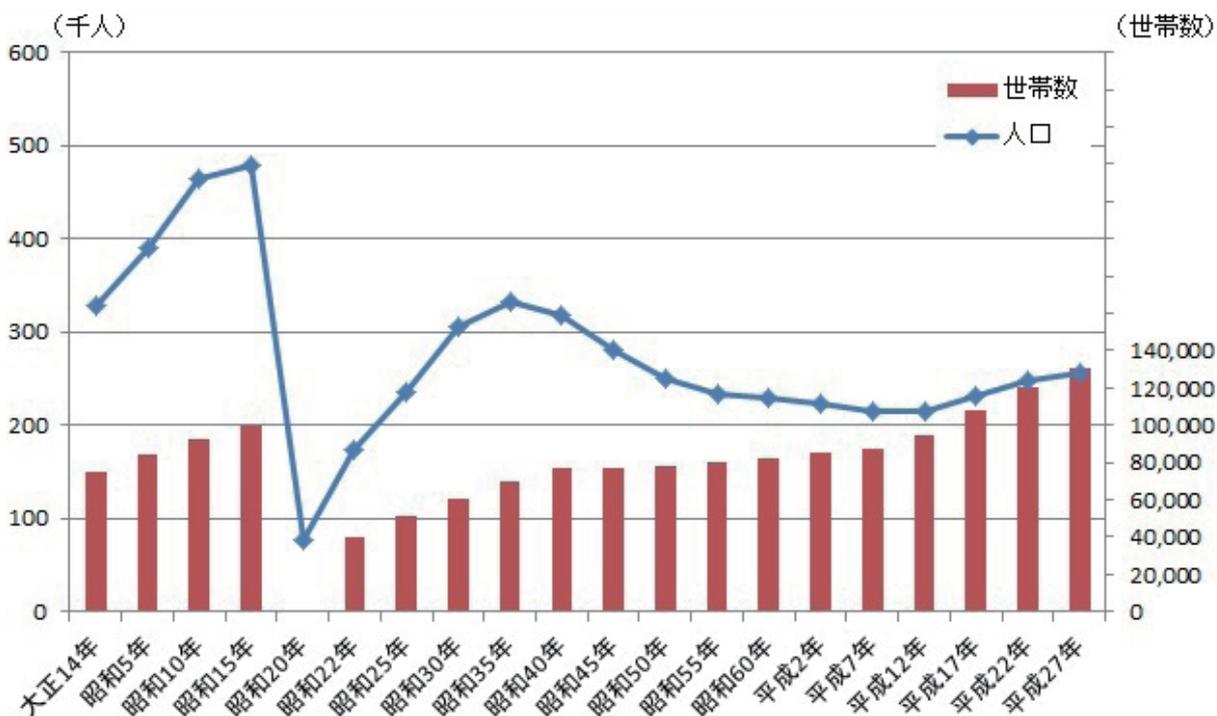
委員会で指摘された現況確認の視点 *丸数字は各委員会の回数		発言者	現況調査項目の視点	
			分野・項目	関連ページ
人口・世帯	①地域イメージと人口増減(南北等)	小出	a.人口特性の変化・分析 ①墨田区の概況 ②推計人口 ③町丁目別の人口分析 ④白鬚団地の特性	全般
	①基礎的情報整理(5歳階級社会増減ほか)	高野		①
	⑤人口予測(高齢者割合等がわかるもの)	小木曾		②
	①地区別人口・世帯の増減・変化	加藤・阿部		③
	①地区別の高齢化率・単身高齢者率	藤井		③
	②単身世帯の構造・広がり	篠崎		③
	②子育て世代・年少人口の動向	加藤		③
	②外国人居住の特性	藤井		③
	①都営白鬚団地	小出・青山・藤井		④
土地・建物利用	②⑤これまでの取組み評価	小出・加藤	b.土地利用の変化(これまでの施策の効果検証) ①土地・建物利用概況(住商工/規模の変化) ②住まい・集合住宅条例等 ③高度地区 ④防災(密集事業等) ⑤空き家状況	全般
	①工場と商業地の変化	小出		①
	①地区別の建築動向	加藤		②
	②商業地外の商業立地状況	高野		①
	①南のマンション化進行	小出		②
	①マンションの戸当たり面積の変化	高野		②
	②マンション住戸、細分化戸建ての傾向	小出・笠井		②
	①老朽マンション(築40年以上棟数・戸数/地区別特性)	青山		②
	①老朽マンションの状況(築年×高さ)	藤井		②
	①定住の指標等(床面積別住戸数・敷地面積規模別マンション数・マンション建物と管理組合・老朽化・空き家数等)	高野		②
	①⑤高度地区の導入効果	藤井		③
	⑤建物高さや規模、敷地の変化	篠崎・藤井		③
	①地域別容積充足率	篠崎		③
	①木造密集市街地の指標化(耐震性・耐火性)	小出		④
	⑤生活道路の整備達成状況	笠井		④
	①⑥空き家問題・空き家の状況	小出・小林		⑤
①空き家問題(北部・南部・戸建)	藤井	未		
複合	⑤拠点の吸引力について	小林	c.まちの拠点性・すみだらしさや都市像、方針への考察	全般
	①昼夜間比率/人口・世帯・建築動向との関連	加藤・小木曾		
	③昼間人口の内訳(就業者・訪問者)	阿部		
	①南北移動(鉄道・バス交通)	藤井		
	③先端産業の立地	高野		
	②商店街・商店街外の商業立地	高野		
	①職住一体の土地利用特性	阿部・小木曾		
	①②南北の違い	岸・小出		
	②住工共存の特性	篠崎		
	⑤拠点の吸引力について	小林		
⑤目指す都市像につながる人口分析	岸・小出			

1 墨田区の人口

①墨田区の概況

- ・墨田区の人口は、平成 27 年には 25 万 6 千人である。これは戦前の最高人口を記録した昭和 15 年の約半分となっている。戦時中は空襲で多くの住民を失い、戦後は急速に人口回復したものの、昭和 35 年をピークに平成 7 年まで緩やかな人口減少が進んでいた。この間も世帯数は戦後一貫して増加し続けている。
- ・平成 7 年以降は人口増・世帯増が進んだ。特に、世帯数は戦前の最大期を越えている。人口増加傾向が 2030（平成 42）年あたりまで続くことが推計されている。
- ・年代 3 区分の推移では、生産年齢層にあまり変化はないが、高齢者層の割合が少しずつ増えている。
- ・転出入状況では、どの年代でも転出を上回る転入が続いていること、特に若年層の転入超過を主な要因とした人口増加傾向が続いている。なお、転出入の状況が把握できる範囲で約 20%が転入層である。移転前は区内または近隣区からの移住者が多い。
- ・人口の増加は南部の両国駅と錦糸町駅周辺及び押上・曳舟駅周辺などで顕著に進んでいる。世帯数の増加は人口増加エリアよりも広い範囲で進んでいる。
- ・南部では高齢化も進んでおり、高齢者のみ世帯、高齢者単身の割合も高くなっている。

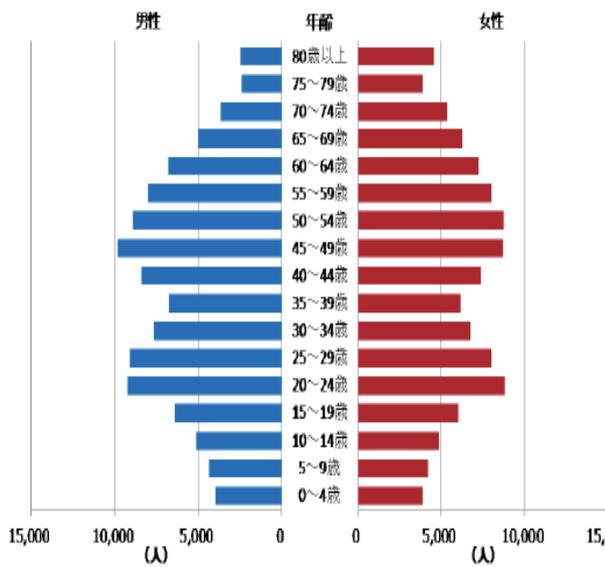
図 墨田区の人口推移と長期的見通し



出展：各年国勢調査

◆年代別の人口構成

図 人口ピラミッド (平成7年⇒平成27年)
〈平成7年〉



〈平成27年〉

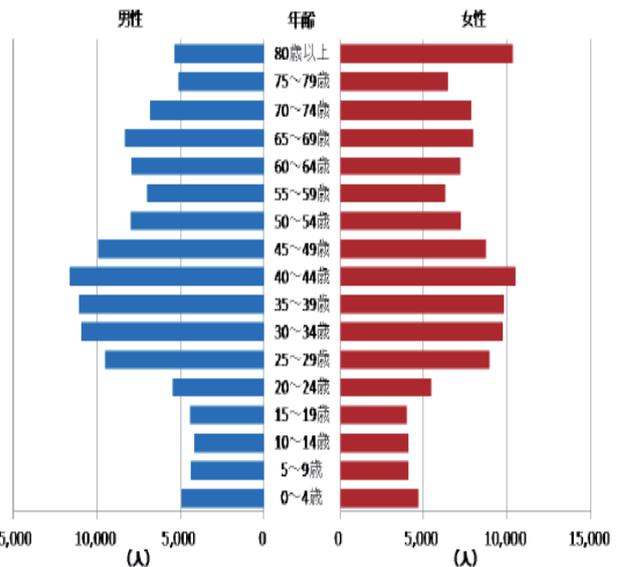
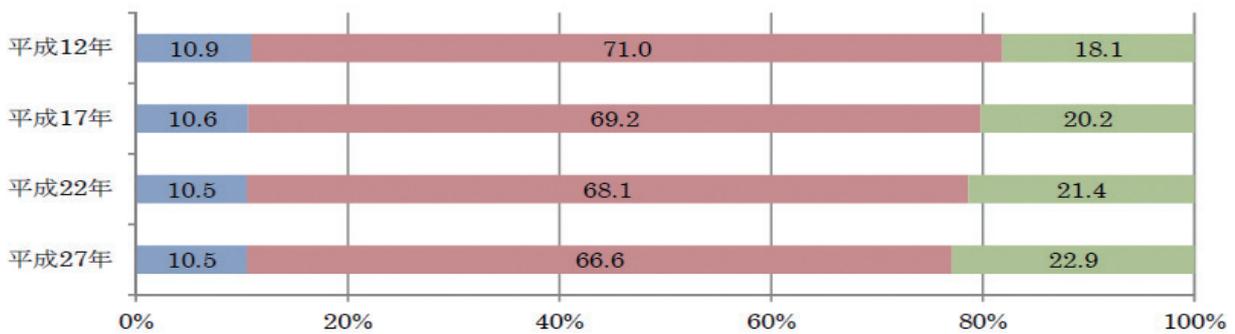


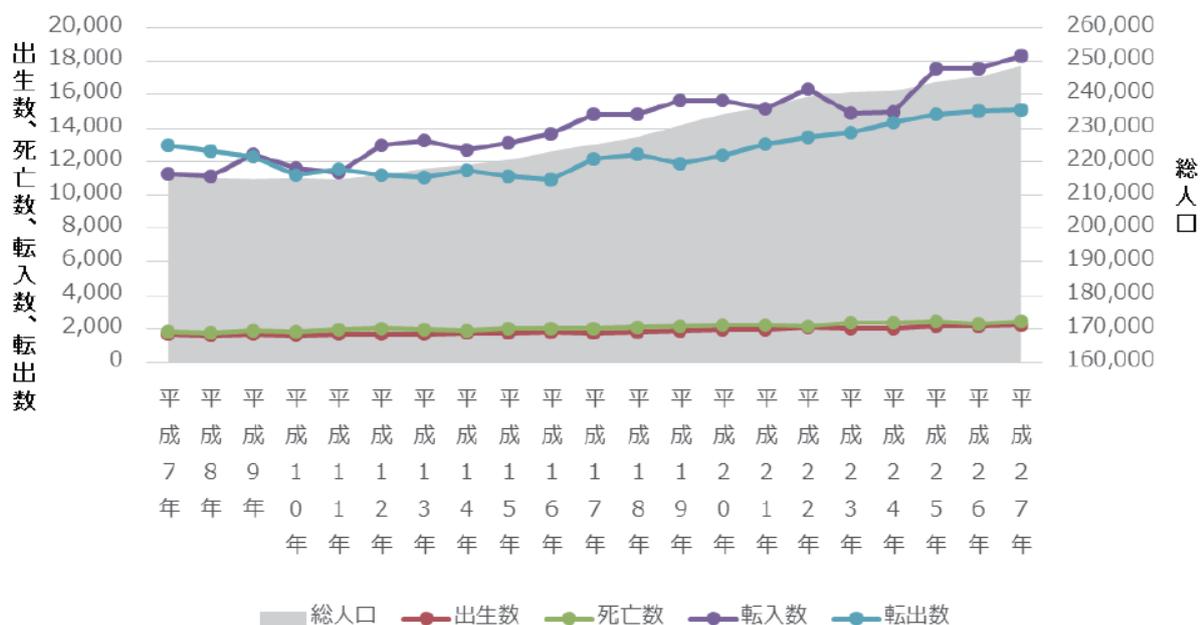
図 年代別推移

出展：墨田区人口ビジョン H28.3



出展：各年国勢調査

図 出生・死亡・転入・転出の推移



出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査
(平成7～27年/総務省統計局)

出展：墨田区人口ビジョン H28.3

< 居住者の移動状況 >

図 5年前の居住地（墨田区総人口に対する割合）

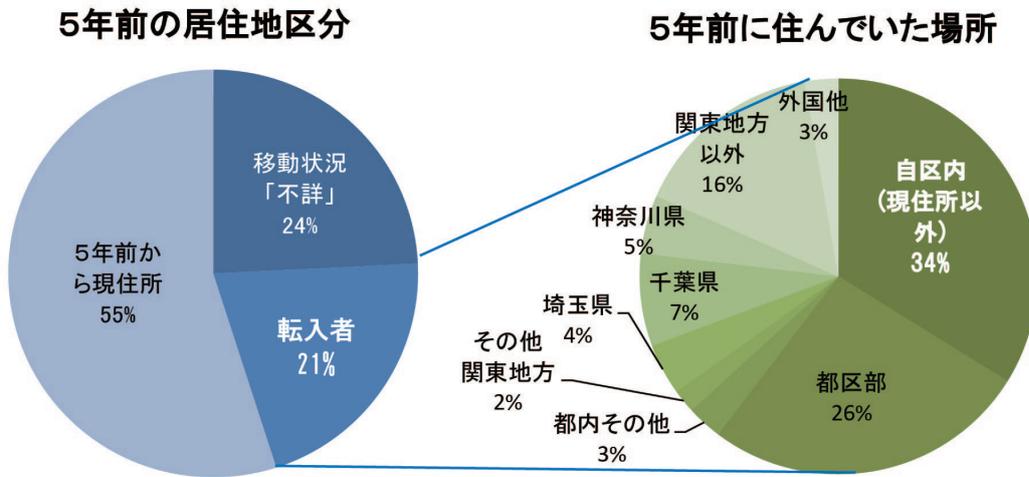


図 転入者が多い町丁目

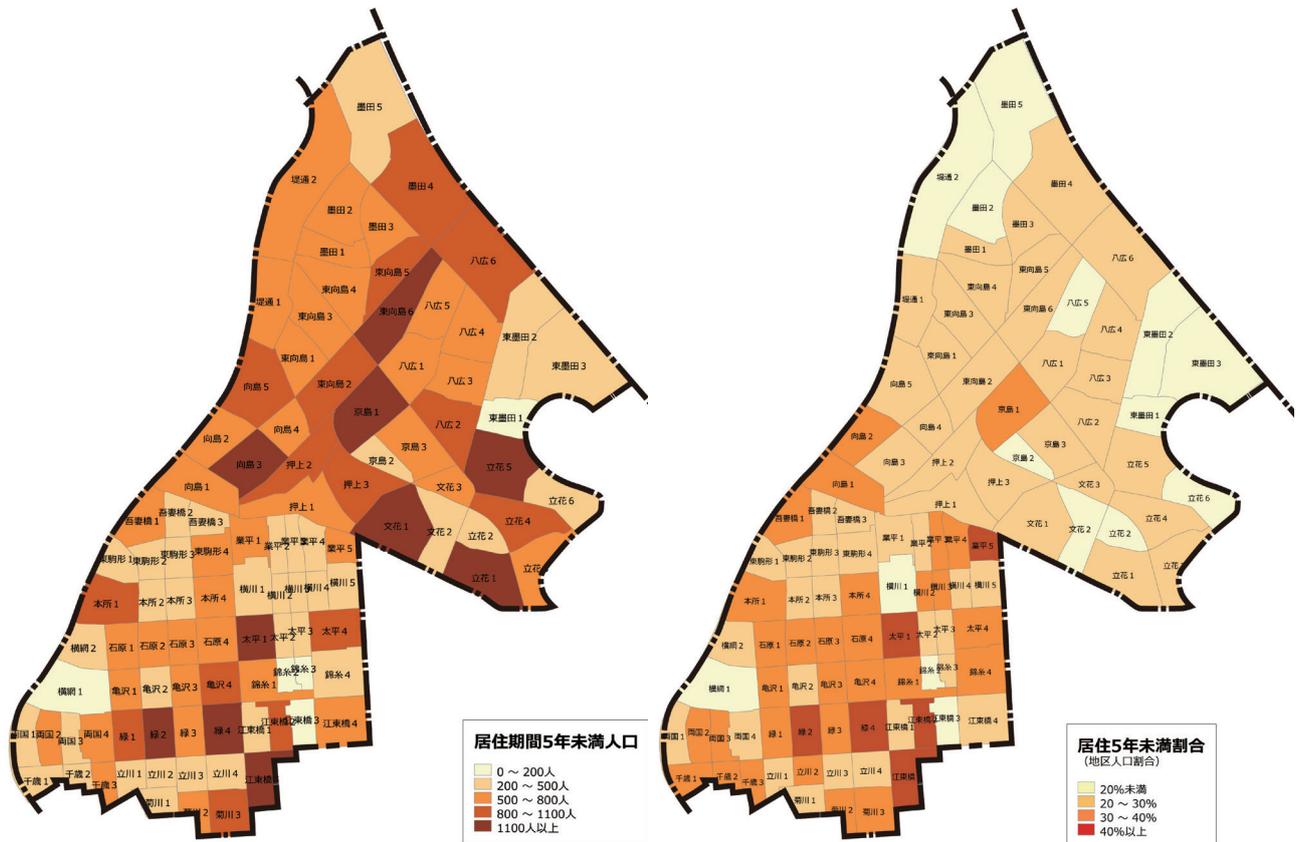
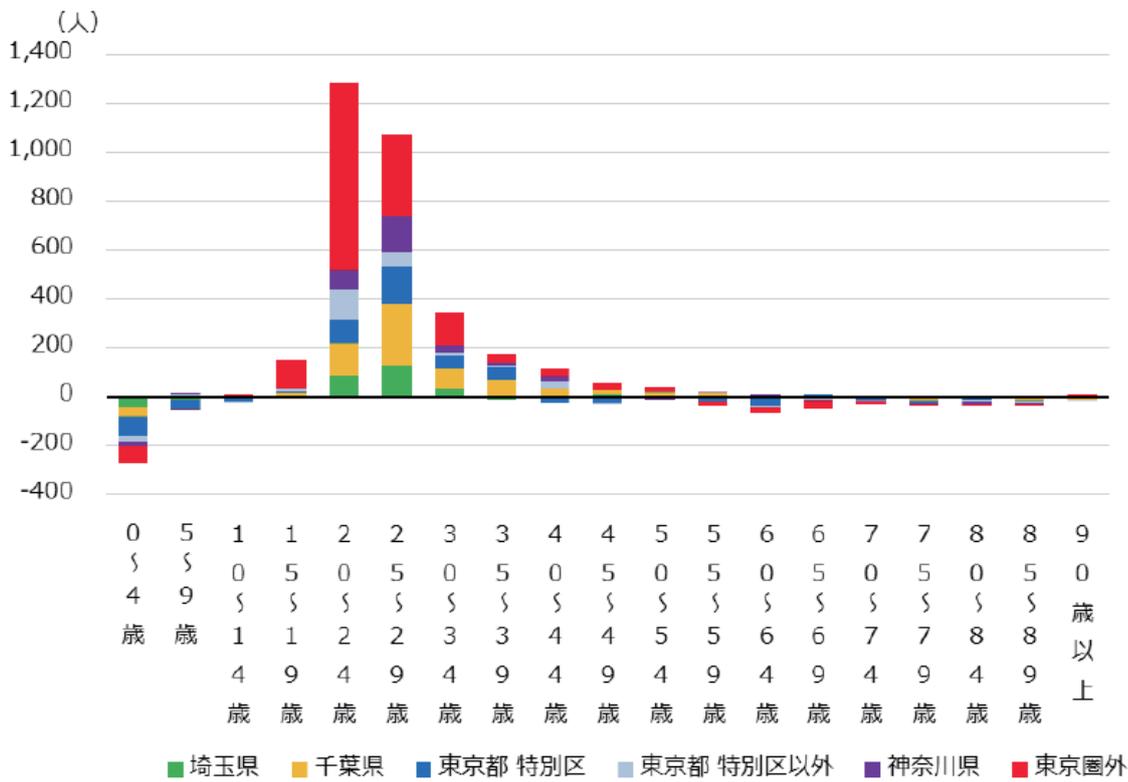


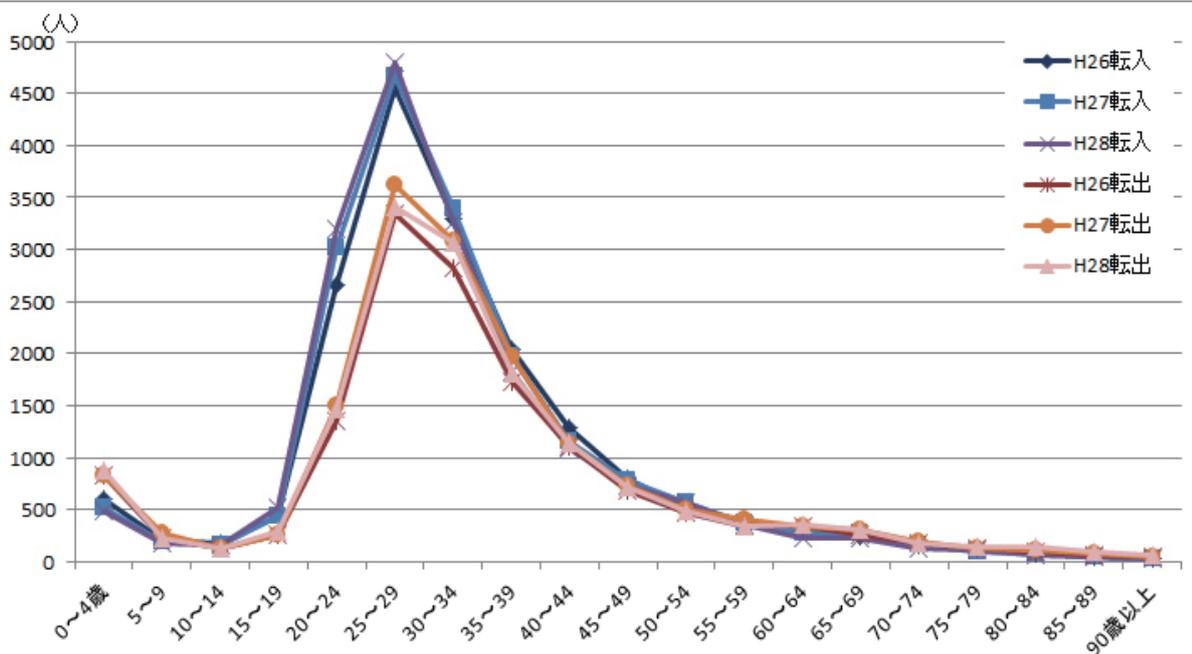
図 5 歳階級社会増減



出典：住民基本台帳人口移動報告（特別集計）（平成 24、25 年／総務省統計局）

出展：墨田区人口ビジョン H28.3

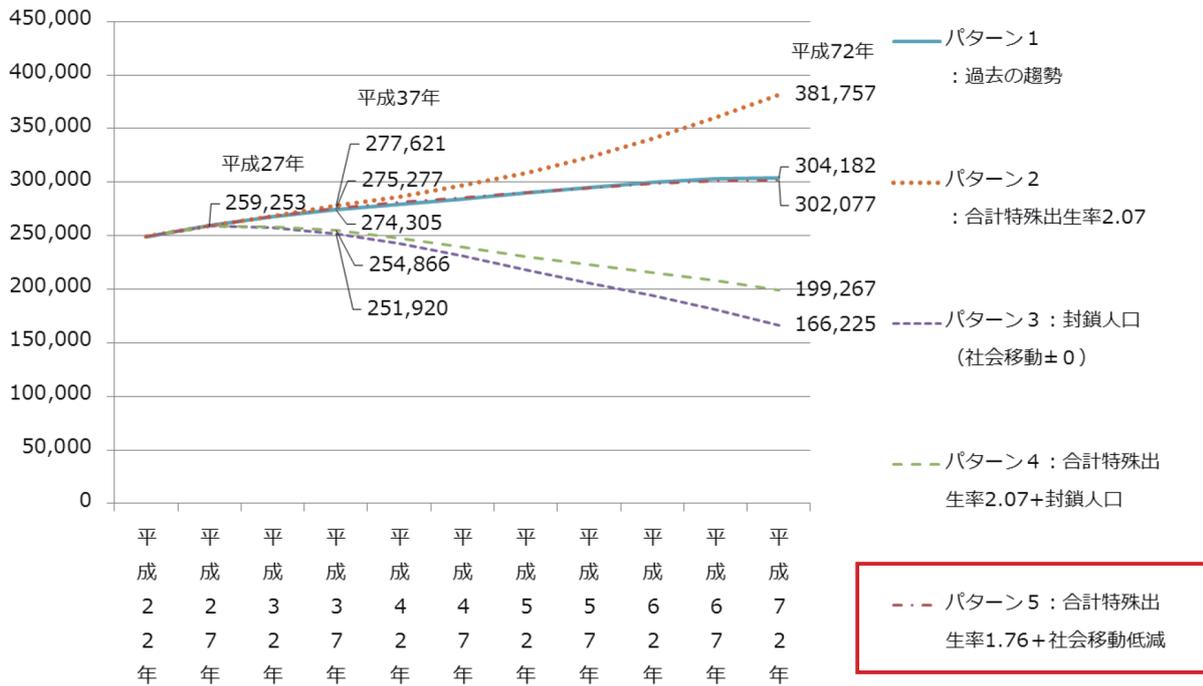
図 年代別の転出入の推移



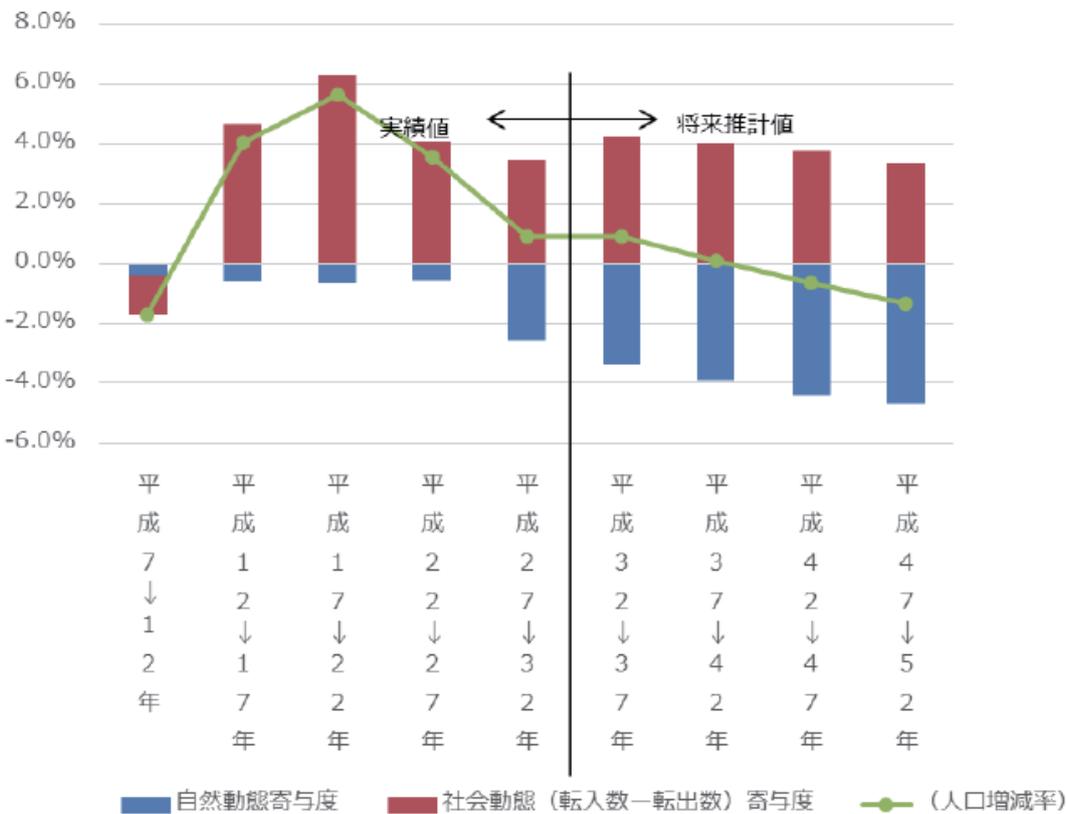
出展：各年国勢調査

② 推計人口（墨田区人口ビジョン平成28年3月より）

図 推計人口



■人口に対する人口動態要素の寄与度



出典（実績値）：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（平成7～27年／総務省統計局）

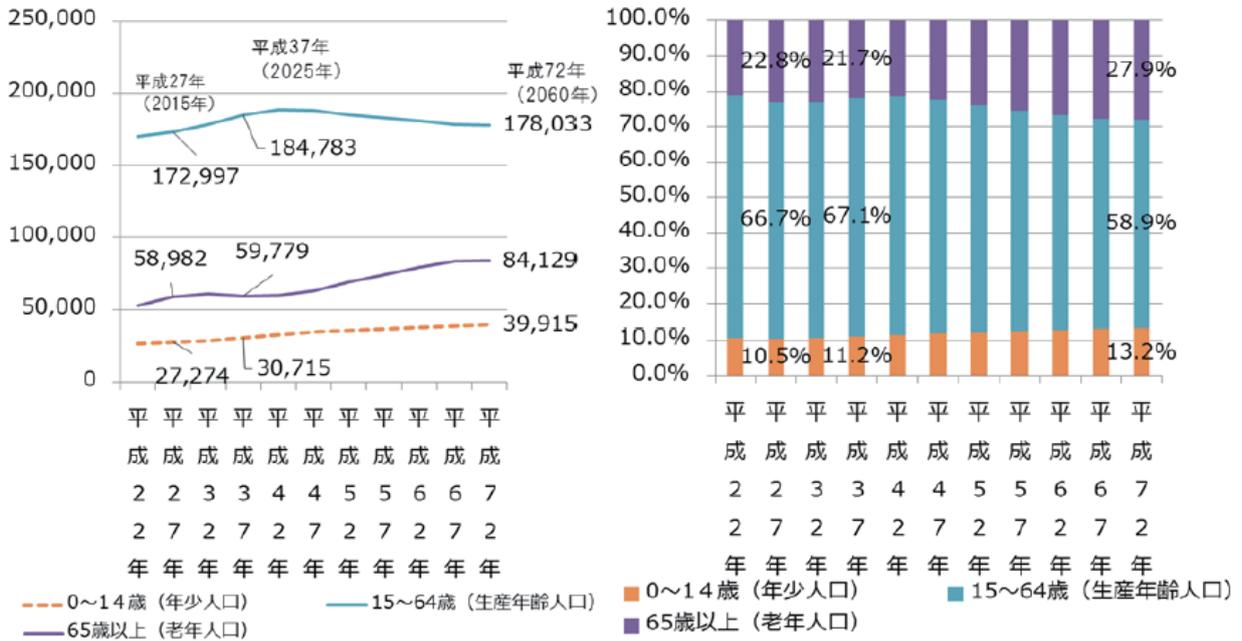
出典（将来推計値）：日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計／国立社会保障・人口問題研究所）

2025（平成 37）年は 275,000 人、2060（平成 72）年に 300,000 人とすることをめざします。

現在、本区の人口増加には、社会動態が大きく寄与しています。今後、国の総人口が減少するとともに、各自治体において地方創生に向けた取り組みが行われることで「東京一極集中の是正」が進むと仮定し、現在の社会流入が徐々に縮小していくことを想定しています。

その一方で、自然動態については、2014（平成 26）年時点で 1.22 である合計特殊出生率を、2040（平成 52 年）に東京都民希望出生率（東京都の若い世代の結婚・子育ての希望が実現した場合の出生率）である 1.76 まで向上させることを想定しています。

■年齢 3 区分別人口



**■2060（平成 72）年までの人口分析（設定条件を達成した場合）
（実数）**

	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年 2025年	平成42年	平成47年	平成52年 2040年	平成57年	平成62年	平成67年	平成72年 2060年
0~14歳 (年少人口)	26,517	27,274	28,585	30,715	32,741	34,465	35,665	36,783	37,913	38,988	39,915
15~64歳 (生産年齢人口)	169,952	172,997	178,221	184,783	188,421	188,119	185,095	183,178	180,745	178,376	178,033
65歳以上 (老年人口)	52,712	58,982	61,029	59,779	59,970	63,202	69,360	74,448	79,652	83,674	84,129
総人口	249,181	259,253	267,835	275,277	281,132	285,786	290,120	294,409	298,310	301,038	302,077

（割合）

	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年 2025年	平成42年	平成47年	平成52年 2040年	平成57年	平成62年	平成67年	平成72年 2060年
0~14歳 (年少人口)	10.6%	10.5%	10.7%	11.2%	11.7%	12.1%	12.3%	12.5%	12.7%	12.9%	13.2%
15~64歳 (生産年齢人口)	68.2%	66.7%	66.5%	67.1%	67.0%	65.8%	63.8%	62.2%	60.6%	59.3%	58.9%
65歳以上 (老年人口)	21.2%	22.8%	22.8%	21.7%	21.3%	22.1%	23.9%	25.3%	26.7%	27.8%	27.9%
総人口	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③町丁目別の人口・世帯分析

<人口・世帯数>

図 人口増減

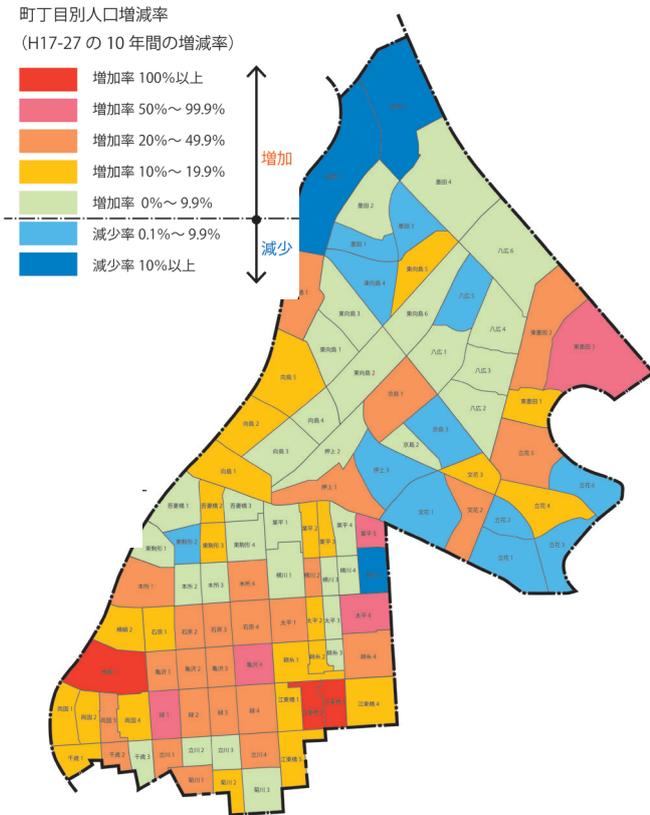
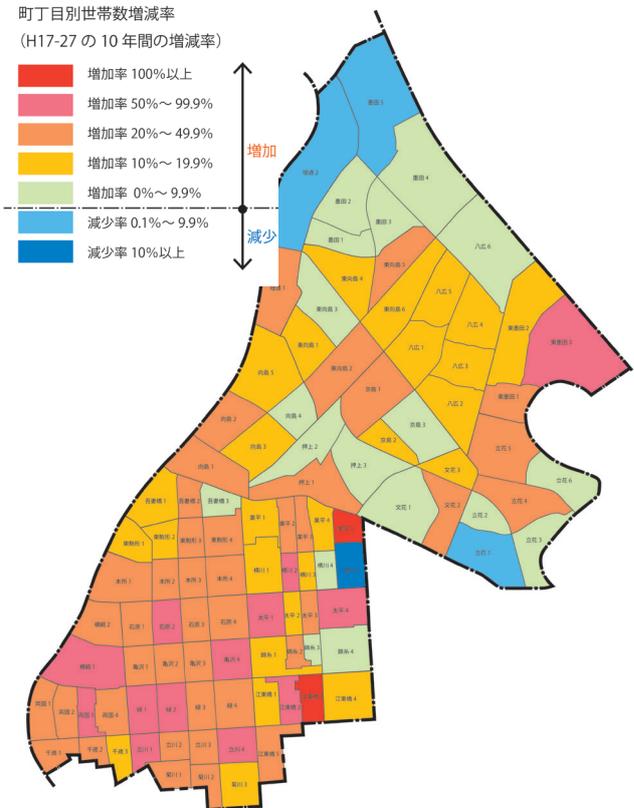


図 世帯数増減



<人口・密度>

図 人口密度の分布 (H27)

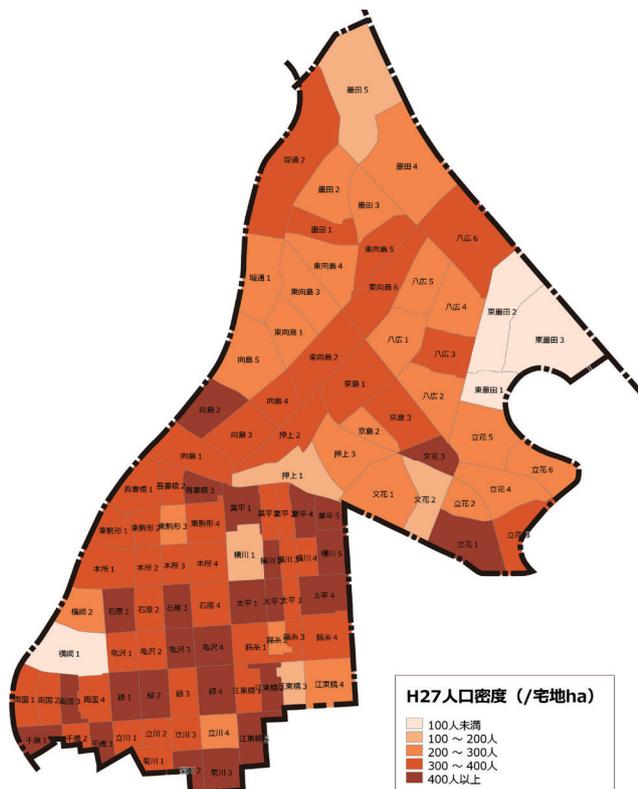
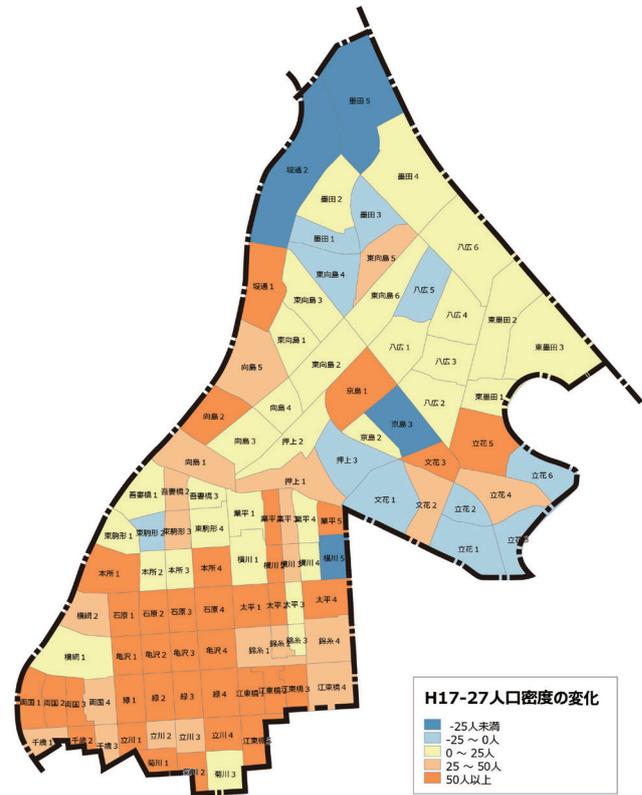


図 人口密度の変化 (H17-27)



出展：各年国勢調査

< 高齢者 >

図 高齢化率の変化（平成 17 年→ 27 年）

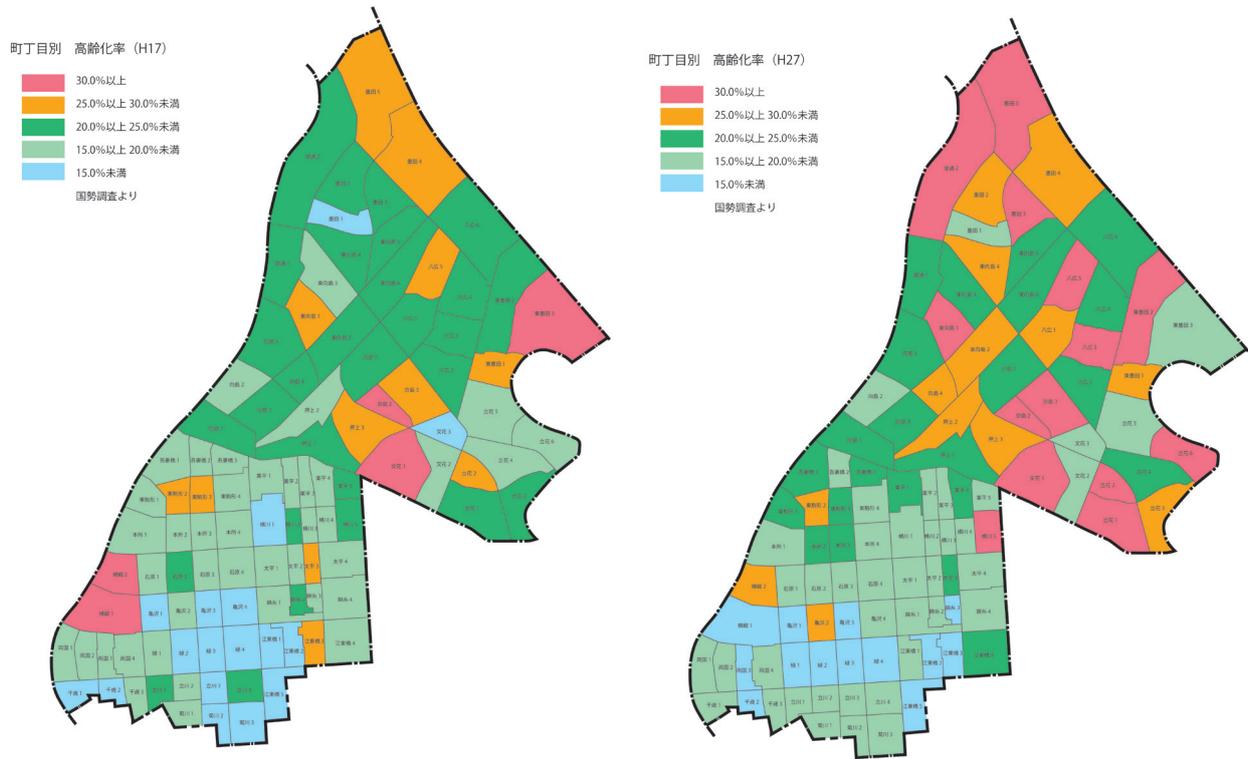


図 高齢者のみ世帯

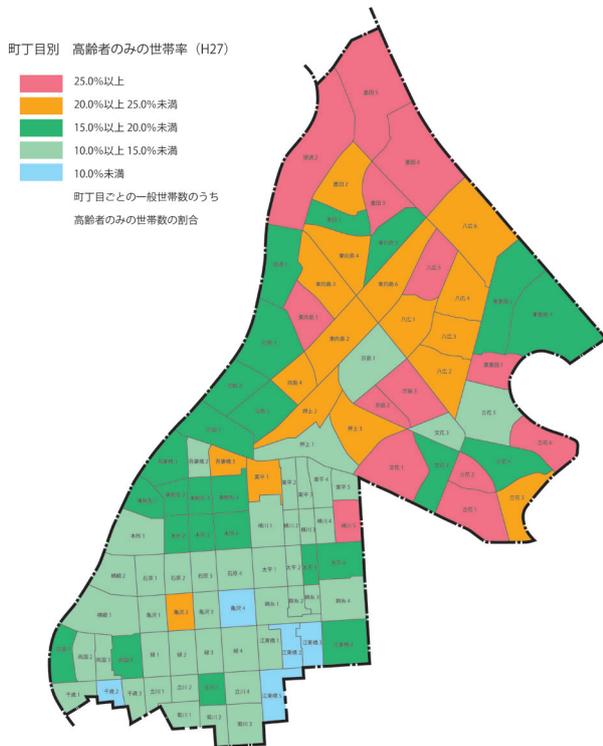
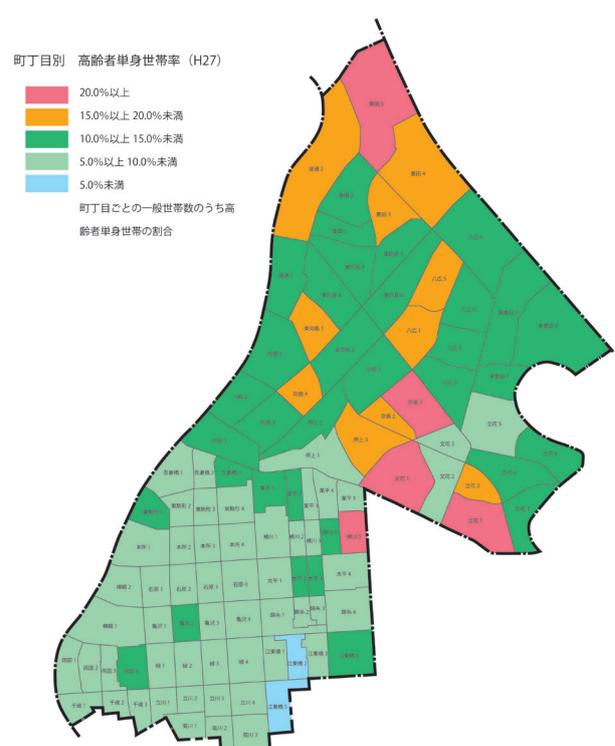


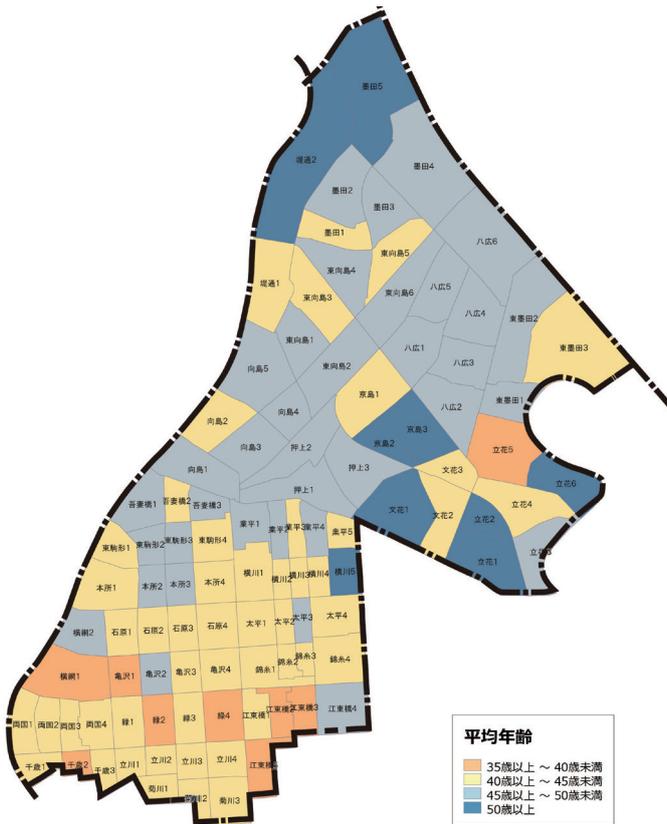
図 高齢単身世帯



出展：各年国勢調査

< その他の世代・世帯 >

図 平均年齢



- ・町丁目別の平均年齢を確認すると、堤通文花・立花・京島と、亀沢では15歳以上の開きがある。(最高：墨田5丁目53歳 最低：江東橋2丁目37歳)
- ・高齢者と若年層の伸び率をそれぞれ確認したところ、必ずしも若年層が増えているところで高齢化が抑えられているわけではない。子どもを持たない壮年層の動きが人口増・世帯数増加を支えていることがうかがえる。
- ・次ページでは平成17～27年に南部で顕著に増えた単独世帯と20～40代女性の増加状況を確認できる。特に40代女性は区域全体で顕著に増えている。

図 65歳以上の高齢者数の変化

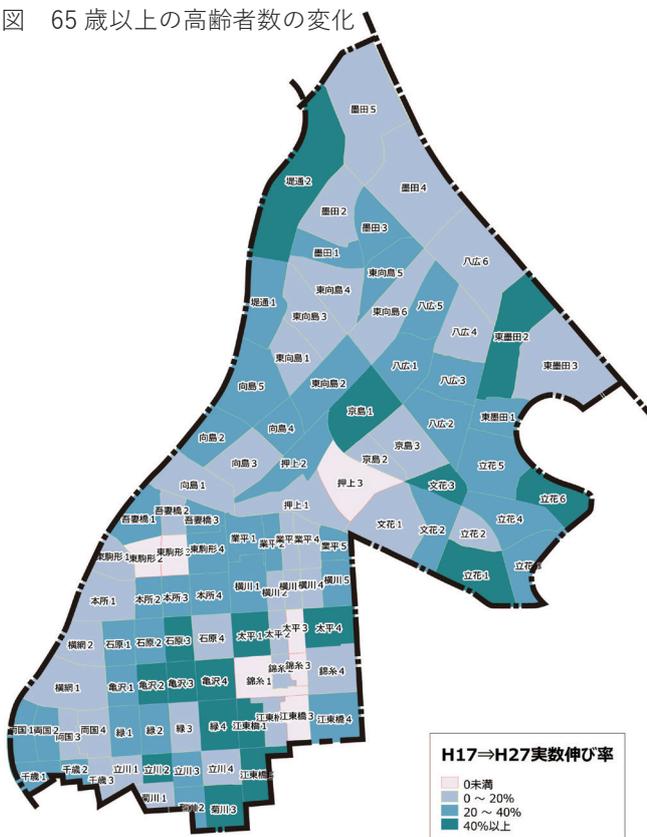
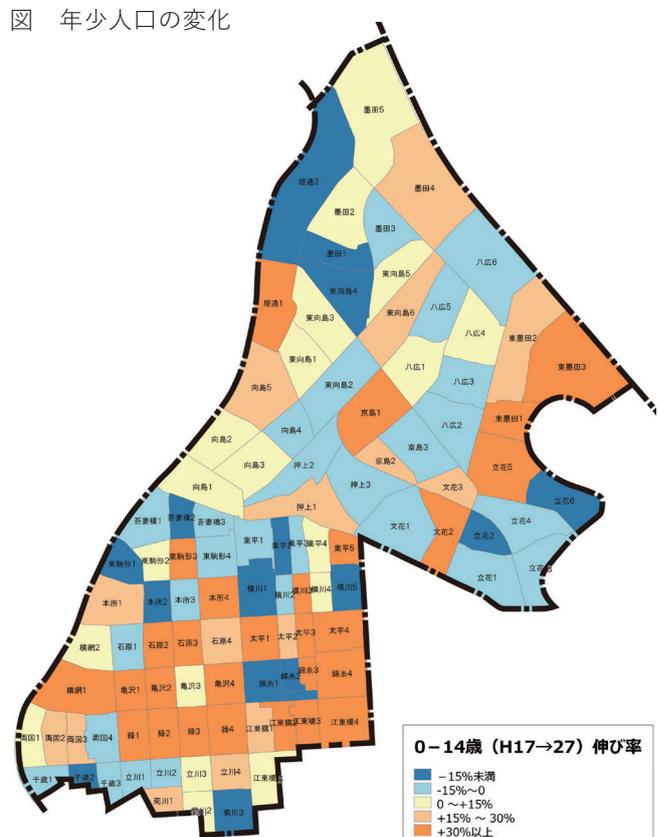


図 年少人口の変化



出展：各年国勢調査